

山梨の新たな果樹産地を目指して ～富士・東部地域の取り組み～



山中湖村の醸造用ブドウ垣根

富士五湖地域の 果樹栽培

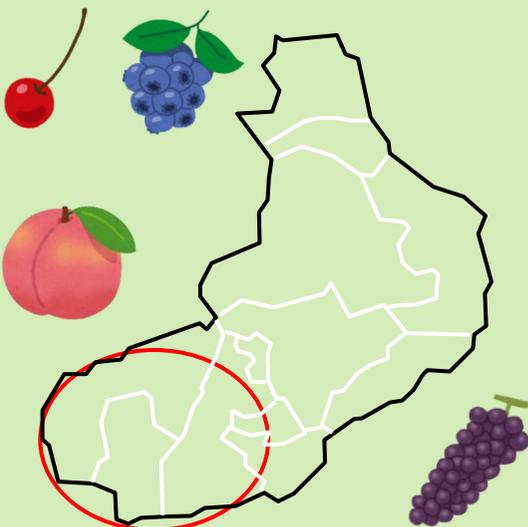
山梨県は国中地域のモモやブドウなどの果樹が有名ですが、富士五湖地域でもサクランボやブルーベリーが観光農園として以前から栽培されています。シーズンになると多くの観光客で賑わっており、特にブルーベリーは、ジュースやジャム等の加工品としても道の駅などで販売され、観光客から高い人気を得ています。

また、富士五湖地域は寒冷地であり、以前はブドウを栽培することは考えられませんでした。しかし、現在では比較的寒さに強い醸造用ブドウが山中湖村を中心に栽培されており、そのブドウを使用したワインも作られています。

富士五湖地域では冬の寒さが厳しいことから樹を寒さから守るため、地面に這わせその上に土を覆い被せるなど、寒冷地ならではの栽培が行われています。

山中湖ワイン

山中湖村で収穫された
ブドウを用いて造られた
限定のワイン



富士五湖地域



富士を望む
ブルーベリー

〜都留市での取り組み〜

都留市は平成28年に農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用し、「道の駅つる」をオープンしました。リニア見学センターが近くにあることから、多くの観光客や地元のお客さんで賑わっています。現在、農産物直売ブースには地元で生産された野菜が多く並んでいます。果物については施設で販売できるほど多くは生産されていませんでした。

こうしたことから、都留市では新たな取り組みとして、他の品目に比べ高収益が期待される果樹栽培を推進し、市の農業発展に取り組みこととしました。平成29年には県の機構借受農地整備事業により農地の条件整備を行い、モモ、スモモ、ブルーベリーなどの栽培試験圃場の設置、栽培管理者として地域おこし協力隊の採用を行うなど、体制づくりを始めました。

現在、果樹栽培に関心がある農業者を対象とした栽培研修会や講演会を開催するとともに、苗木導入やブドウ棚を整備するための農業者への補助を市単独事業として新設し、果樹栽培のより一層の推進を図っています。



7月初旬頃



地域おこし協力隊の田川さん

〜富士河口湖町での取り組み〜

富士河口湖町では、5年ほど前からモモの栽培に取り組んでいます。観光客からの需要の高いモモの産地化に向けて、県と連携し生産者の栽培技術向上に取り組んでいます。平成30年8月には「富士桃」として商標登録を取得し、栽培者の拡大を図っています。

また、平成29年から町の施設等で試験販売も始められています。国中地域と大きく気候条件が違いため、引き続き品種の選定や栽培方法、防除方法の確立が進められています。

富士桃の栽培状況



7月中旬頃

